

奄美大島・喜界島農業の動き

■令和8年8月

1 さとうきびの単収向上と夏植推進へ！奄美大島でさとうきび生産振興大会

8月4日、奄美市の笠利町農村環境改善センターで、「令和8年度大島本島地区さとうきび生産振興大会及び夏植推進出発式」が開催され、生産者や関係機関・団体など約100名が参加しました。令和7年産は、台風被害が少なかったことなどから、大島本島及び富国製糖管内で15年ぶりに生産量3万トンを超え、大会では優秀農家の表彰や富国製糖からの現況報告などが行われました。大島支庁からは、単収向上に向けた土づくりや適期の栽培管理、病虫害防除、少雨に対応した計画的なかん水等の実践を呼び掛けるとともに、夏植目標79haの達成に向けて、生産者の積極的な取組をお願いしました。農政普及課では、今後も関係機関と連携し、さとうきびの単収向上と安定生産を支援してまいります。



関係機関あいさつ(大島支庁祝辞)



参加者全員でガンバロウ三唱

2 第11回奄美大島・喜界島マンゴー品評会が開催

8月4日、農業開発総合センター大島支場で、マンゴーの生産振興、銘柄確立及び生産技術向上を目的とする「第11回奄美大島・喜界島マンゴー品評会」が開催されました。出品された10品の外観、糖度について審査し、評価点の高い順に金賞1点、銀賞2点、銅賞2点を選出しました。平均糖度は15.7度と昨年の16.1度と同等でしたが、最高糖度は昨年の17.6度より高い18度と、生産技術の向上がうかがえました。出品されたマンゴーは、地元マスコミ3社（南海日日新聞、奄美新聞、あまみエフエム）に事前依頼して、抽選で当選した9名にプレゼントしPRを図りました。



外観の審査風景



特別賞に選ばれたマンゴー

3 第2回 令和8年度農業基礎講座の開催

8月18日、奄美市農業研究センターで、新規就農者や就農支援センター研修生等を対象とした第2回『令和8年度農業基礎講座』を開催しました。「病虫害防除」では、「なぜ病虫害は発生するのか？」を問題提起し、果樹や野菜の主要病虫害の紹介、発生要因の考え方と軽減に向けた環境条件づくりの重要性、奄美群島の特殊病虫害に対する注意喚起を紹介しました。「土壌・肥料」では、奄美の土壌の特徴、地力の決定要因、pHと収量性や生育障害の因果関係、土壌診断の重要性等を説明し、多数の質疑応答と情報交換をすることができました。今後、「果樹」、「農作業安全」などの講座を計画しており、新規就農者等の営農に関わる基礎知識・技術の習得支援を図ってまいります。



農業基礎講座「病虫害防除」の様子